

## 小麦の省力的な追肥技術

### 【1 成果概要】

- (1)速効性窒素肥料と肥効調節型肥料(リニア型 15日タイプ)を1:1に配合した肥料を使用することにより、追肥作業を融雪期(3月中旬~下旬)の1回に削減できます(以下「全量1回追肥」という)。基準とする窒素量は慣行追肥の合計量とします。
- (2)全量1回追肥の時期を「銀河のちから」では融雪期15日後、「ゆきちから」では融雪期~融雪期15日後とすると、慣行並の収量と原粒タンパク質含有率を確保できます。

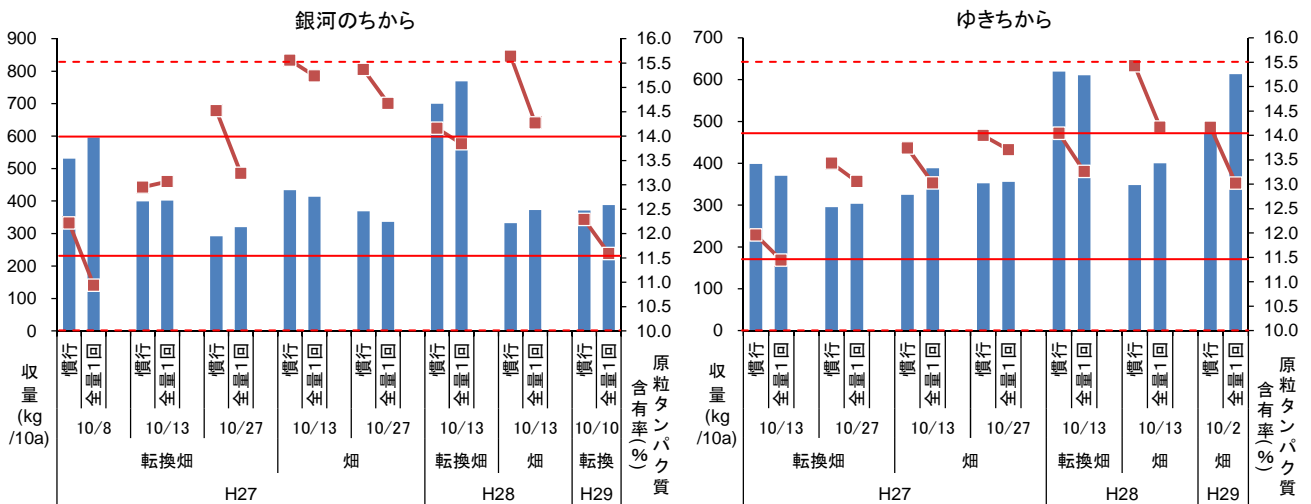


図1 慣行追肥と全量1回追肥の収量および原粒タンパク質含有率

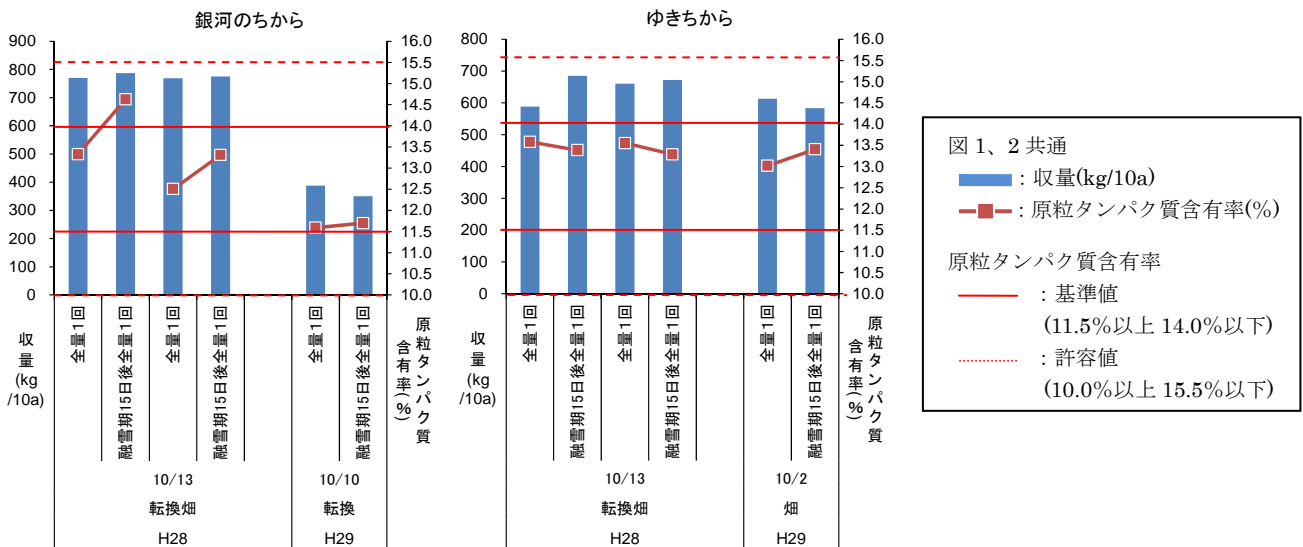


図2 全量1回追肥における施用時期と原粒タンパク質含有率

### 【2 留意事項】

- (1)越冬後の生育量が少なく、減収が懸念される場合は、早期に生育量を回復させるため、融雪期(3月中旬~下旬)に追肥します。
- (2)消雪日が2月中であっても融雪期追肥は3月中旬~下旬に行います。
- (3)融雪期追肥を15日遅らせても出穂期等生育ステージの遅れは見られません。